

市況を 読む

自動車タイヤに使われる天然ゴムの値動きに方向感が見いだしくなっている。最大消費国の中国で自動車販売が減速し上値を抑える一方、米中両国の通商交渉が進展し需要が増えるとの期待も広がる。今後の価格見通しについて、ゴム専門商社、加藤事務所(東京・中央)の加藤進一社長に聞いた。

指標となる東京商品取引所の天然ゴム先物(RSS、期先)価格は1月下旬に高値を付けた後、調整局面に入りました。

「相場の方向感が定まらないのは米中貿易摩擦の行方が読めないからだ。トランプ米大統領をはじめ、両政府の要人の通商交渉を巡る発言に市場関係者は一喜一憂する。天然ゴム相場は関係者の思惑に反応しやすいため、発言で値

(素材プライス)

動きが二転三転しやすい」国の自動車販売が急速に上向き間がかかることが認識されてもあった。短期的には相場速が鮮明になってきました。中国では自動車販売減くとは考えにくい。当面は価格上昇を抑えるだろう」

「天然ゴム相場の下押し圧力になっていく。中国は天然材料は何ですか。相場を下支えしている。もう一つは最大産地のタイを中心、東南アジアの生産国が減産期に入ることによって供給が絞られるとの懸念だ。産地では例年2月から4月にゴムの木が落葉し、生産量が全体で2割程度減少するといわれる。近年は減産期でも取引価格は大幅に上昇しないが、1キあたり20円程度上がること

「仮に両政府が合意に至り、関税率の引き上げが回避されれば中国のタイヤメーカーが天然ゴムの調達を急ぐはずだ。米輸出向けのタイヤ生産が少しずつ回復するだろう。そうなれば相場は上昇するのがセオリーだ。短期的には195円前後で推移し、一時的に200円を超えることも考えられる」

「米中の通商交渉の行方次第で様々なパターンが考えられる。交渉期限の3月1日までに具体的な合意に至らず、予定通り2千億ドル分の中国製品の関税率が引き上げられることになれば、中国経済はさらに悪化する。需要の減少が意識され、天然ゴム価格は一段安くなる。1キ160円台に下落し、瞬間的に150円台まで下がることもあるだろう」

「もう一つは最大産地のタイを中心、東南アジアの生産国が減産期に入ることによって供給が絞られるとの懸念だ。産地では例年2月から4月にゴムの木が落葉し、生産量が全体で2割程度減少するといわれる。近年は減産期でも取引価格は大幅に上昇しないが、1キあたり20円程度上がること

米中「決裂」なら一段安も

加藤事務所社長

加藤進一氏



かとう・しんいち 80年(昭55年)東大工卒、三菱商事入社。92年に加藤産商に入社、常務取締役。00年に加藤事務所を設立し、社長に就任。61歳。

天然ゴム



(聞き手は榊田大暉)

食用油などの原料になる大豆の国際価格の上値が重い。2018年7月に米中貿易摩擦の激化を受けて急落。12月以降、関係改善期待からじりじりと上昇してきたが、ここにきて伸び悩んでいる。中国の報復関税で貿易量が細るなか、在庫は積み上がっている。貿易協議の行方は見通せず、目先は方向感の定まらない値動きが続いてきた。

大豆国際価格上値重く

米中貿易協議の行方注視

国際価格の指標となる

内容。「古過ぎるデータは参考にならない」(伊藤忠商事傘下の食料マネジメントサポートの服部秀城本部長)との声があった。様子見していた投資家の売買意欲を刺激するには至らず、横ばい圏を脱するきっかけにはならなかった。

2月上旬に公表された米産農産物の週間の輸出修正されたが、1億トンの潤沢な在庫も相場の重荷だ。米農務省が2月上旬に2カ月ぶりに公表した農産物需給報告では、米産大豆の18、19年度の期末在庫が前年比約2倍と過去最高水準に達した。中国需要の取り込みに向けて増産するブラジルの生産量はエルニーニョによる天候悪化で下方修正されたが、1億トンの

し「中国勢も懲りている。昨秋以降下がりに続いていた出荷価格も上昇に転じており、採算割れしてまで無理